

< 2005年度の講義 >

- | | |
|-----------------------------|-------|
| 1 . 自然神学とその再構築 | |
| 2 . 「宗教と科学」関係論の基礎 | |
| 3 . 現代の環境論とキリスト教思想 | |
| 4 . 現代の生命論とキリスト教思想 | |
| 4 - 1 現代の生命論と神学 - 問題状況 - | 11/18 |
| 4 - 2 創造論の視点から - 人間の創造性とは - | 12/2 |
| 4 - 3 自己決定原則とキリスト教 | 12/9 |
| 展望 - 自然神学の可能性 - | 12/16 |

4 現代の生命論とキリスト教思想

「宗教と科学」関係論の倫理的場

from conflict to consonance (Ted Peters)

4 - 1 現代の生命論と神学 - 問題状況 -

(1) 生命倫理の諸問題

- 1 . 現代の問題状況：1960年代・70年代、生命倫理の発生 問いとしての生命
 科学技術の進歩と、選択の範囲の拡大（より自由に）
 生命の発端の終局、そして過程において
 人間はいつから人間か？（人間はいつ人間であることをやめるのか？）
 生殖革命、墮胎・幼児遺棄の問題
 脳死・臓器移植
 人体の改造、「子ども」誕生 人権の主体としての幼児
 - 2 . 自由原理
 cf. 環境倫理：平等原理
 - 3 . 1980年代後半、あるいは1990年代以降の変化
 人間の改造、Are We Playing God with Our Genes ?
 日本：自由原理の後退
 - 4 . 問題：キリスト教的視点とは、宗教的次元とは、何が宗教的な問いか。
 問いの定式化には、基礎的考察が必要になる。
 二つのモデル（ティリッヒ）：体系と根拠、問いと答え
 - 5 . バルトの神学的倫理学
 垂直線と水平線との交差としての倫理的出来事・決断
 cf. 決義論、状況倫理
- ・ 神の言葉と歴史的状況
 キリスト教的伝統における類似の問題 歴史という視点

- ・原則と例外
- ・決断する人間の有限性

決断・決定をめぐって

だれが / 基準 / 何のために / いか

(2) 聖書の生命観 - 現実主義・現世主義 -

6 . 土の塵から生きる者へ (神の息)

人間存在の有限性 (他者へ依存した存在、生かされている)

無限の欲望充足はあり得ない

< 創世記 2 >

7 主なる神は、土 (アダム) の塵で人 (アダム) を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった。

7 . 現世中心 (現世における生命の充実) と黙示文学 (死後の生)

現在と未来との緊張 今の快楽を追求する刹那主義的生か、未来のために現在を犠牲にする生き方か

< マタイ 8 >

18 イエスは、自分を取り囲んでいる群衆を見て、弟子たちに向こう岸に行くように命じられた。19 そのとき、ある律法学者が近づいて、「先生、あなたがおいでになる所なら、どこへでも従って参ります」と言った。20 イエスは言われた。「狐には穴があり、空の鳥には巣がある。だが、人の子には枕する所もない。」21 ほかに、弟子の一人がイエスに、「主よ、まず、父を葬りに行かせてください」と言った。22 イエスは言われた。「わたしに従いなさい。死んでいる者たちに、自分たちの死者を葬らせなさい。」

8 . 現世の生命の充実とは？ 神との交わり (本来的な人間関係の回復 = 神の国)

(3) 問題の多次元性とキリスト教思想固有の問い

9 . 脳死・臓器移植問題の教訓

- ・合意形成の未熟さ、はじめに臓器移植ありき
- ・生の多次元的統一性における問題

学際的討論の場としての自然神学の不在

10 . 脳死・臓器移植をめぐる宗教的問題

キリスト教的視点？

生命の価値を決定するのは誰か

権利は神に、しかし、人間が責任を問われる

キリスト教的原則：生命の最終決定者は神である

人間の恣意的な判断の禁止

存在することの意味（創造の善性）

「にもかかわらず」無意味ではない

他者の死への依存（人間は関係存在である）

11. だれが、生命をめぐる最終的決断を担うのか？

本人？ 家族（家長・大人）？ 世間？ 国家？ 神？

12. 類似の問題から

自殺と安楽死

これは、個人の権利の事柄か？

自分だけで生きているという意味の「個人」の抽象性

13. 自由の限界：「他者危害の原則」（他人を傷つけない限りでしか、自己決定権は行使できない）だけでは十分ではない。

自由も有限性を免れ得ない

14. 臓器移植を肯定する精神性と宗教

システム以前（システムの根拠）の問題 隣人愛

原則化できることと、そのつどの状況で反復すべきこと

< 1ヨハネ3 >

16 イエスは、わたしたちのために、命を捨ててくださいました。そのことによって、わたしたちは愛を知りました。だから、わたしたちも兄弟のために命を捨てるべきです。

ポイント：隣人愛（心情の純粋性）

モデル・規範に照らした合理的判断

信仰の構造

15. 安楽死法の前提は何か？

自己決定原理の健全な展開

< 文献 >

1. ジェームズ・ヒルマン 『自殺と魂』創元社

2. 大林浩 『死と永遠の生命 そのキリスト教的理解と歴史的背景』ヨルダン社

3. 土井健司 「「いのち」の倫理の再構築に向けて - キリスト教の視点から -」、
小松美彦・土井健司編 『宗教と生命倫理』ナカニシヤ書店

4. 東方敬信編 『キリスト教と生命倫理』日本基督教団出版局

5. 加藤尚武・加茂直樹編 『生命倫理学を学ぶ人のために』世界思想社

6. 岡本裕一郎 『異議あり！ 生命・環境倫理学』ナカニシヤ書店

7. 福本英子 『生物医学時代の生と死』技術と人間

8. 芦名定道 「宗教と科学の未来」「生命倫理の挑戦とキリスト教」、

『宗教学のエッセンス - 宗教・呪術・科学 - 』北樹出版

「私たちの生命 - 中絶・脳死・臓器移植をめぐる - 第3講 思想」

『現代を生きるキリスト教』（共著）教文館

Ted Peters, *Genetics and Genethics: Are We Playing God with Our Genes ?*, in:
Science, Theology and Ethics, Ashgate 2003

New Knowledge gained from genetics research is raising a host of Challenging ethical questions, and these ethical questions are prompting theological reflection. The dramatic scale of the biomedical challenges throws us back upon first principles, back to questions about the nature of human nature, about our relationship to ourselves and to our divine source, God. In the popular press the issue is formulated this way: are we playing God ? We formulate it this way: how might theological reflection on the frontier of genetic research guide and direct ethical deliberation ?

(139)

the need to know, prepare the way for treatment through genetic therapy

The new knowledge will require new thinking about the ethical, legal and social dimensions of life for the human beings whose cells contain the DNA being studied.

(139)